

なせば成る なさねば成らぬ 何事も

現代風に言えば「やればできる」。江戸時代、借金まみれで破綻寸前の米沢藩（現山形県米沢市）を立て直した上杉鷹山が、家臣らに残した和歌が由来だ。

鷹山は自ら質素儉約の範を示し、織物などの殖産興業を推し進めた名君とされている。当初は、事業への投資で借金がさらに増え、重臣らが反発。凶作も重なって多数の領民が餓死するなど苦難の連続だった。

それでも、諦めずに改革を続け、返済不可能と思われていた巨額の借金のほとんどを返済したという。

和歌は、「成らぬは人の なさぬなりけり（できないのは、やろうとしないからだ）」と結ばれている。勉強もはじめから諦めていては何も進まない。壁にぶち当たった時にぜひ唱えてほしい。